非接触型デバイスによる呼吸測定とアセスメントの向上に関する研究

看護学科（成人看護学）　中岡　正昭

● 連　絡　先　　TEL：054-202-2947

キーワード　看護，救急，集中治療，急性期，呼吸回数，換気測定

救急医療や急性期医療に特化した問題や課題に対する研究をしています。看護師として10年以上の経験と急性・重症専門看護師として救急医療・急性期医療に従事した経験をもとに、現在発生している医療問題に焦点を当てた研究を行なっています。

昨年度から新型コロナウイルス感染症の渦により医療資源や医療従事者の疲弊が叫ばれています。病院で入院している患者さんを始め、医療施設以外での療養を余儀なくされている患者さんも身体状態を把握するためのバイタルサインを測定することは必須でありながら、医療者の負担は大きくなっています。特に新型コロナウイルス感染症は呼吸症状にあり、呼吸状態のアセスメントに必要な酸素化と換気状況の把握は必須となる。そのため酸素化と換気状況を把握するために非接触かつ非侵襲であり、簡易的にモニタリングを可能とするデバイスが必要であると考えました。この開発したデバイスの妥当性・有用性を確認し、臨床にて看護師がアセスメントできるか検討を行なっていきたいと考えています。

その他の研究では近年、筋電気刺激（EMS）が筋力低下に効果を示すとの報告がされています。集中治療室に入室する急性期にある患者に対しても、EMS を用いることでより効果的なリハビリテーションができるか検討しています。

アピールポイント　救急医療や急性期医療に特化した問題や課題に対する研究をしています。